

poco a poco

パラグアイ便り 2023/09/01 Número 7

2022年度 青年海外協力隊

氏名：吉田 花純

職種：小学校教育

【お祝いがたくさんのパラグアイ】

日本に比べて祝日や行事が多いなあと感じるパラグアイですが、今月はいつにも増してたくさんのお祝いがありました。今月行われた行事について、一部ご紹介します。

★国旗の日 (14日)

全校集会で、校長先生から国旗についての説明がありました。現在パラグアイでは、表と裏で柄が違う珍しい国旗を掲げています。しかし現在の国旗に至るまでにデザインや色が異なる三度の国旗の変遷を経たという歴史があるそうです。



現在の国旗(表)



現在の国旗(裏)



★アスンシオン創立記念日 (15日)

この日はパラグアイの首都アスンシオンの創立記念日でもあり、新大統領が就任した日でもありました。テレビの番組は、新大統領就任の話題で持ちきりでした。



自宅で観ていたテレビの映像



就任式が行われた政府宮殿

★子どもの日（16日）

豪華にデコレーションされた教室で、ハンバーガー、ホットドッグ、ピザ、パラグアイの伝統料理、ケーキやお菓子などのたくさんの食べ物やジュース、プレゼントなどを囲んで、盛大なパーティーが行われました。学校の敷地内にトランポリンなどの遊具が臨時に設営され、子どもたちはとても嬉しそうでした。日本にも「子どもの日」という祝日はあっても、学校ではお祝いしないことを伝えると、大変驚かれました。

・・・それもそのはず。パラグアイでの「子どもの日」誕生には、悲しい歴史が関係していました。1864年から1870年にかけて「パラグアイ戦争」または「三国同盟戦争」に参戦していたパラグアイですが、聞いた話によると、その戦争で国民の5割、成人男性の9割が亡くなったそうです。人員不足により、小さな子どもたちまでもが大人の格好をして武装し、勝ち目のない闘いに動員され虐殺された「アコスタ・ニューの闘い」があったこの日が「子どもの日」になったそうです。亡くなった子どもたちへの追悼と、二度とそのような悲劇が繰り返されることなく子どもたちが幸せに生きていけるようにと願いを込めて、お祝いをする日だそうです。事前に子どもたちは、授業でその歴史について学習をしていました。小学1年生の小さな子どもでさえ、真剣な面持ちで私に説明をしてくれました。



★学校対抗サッカー&ハンドボール大会 (11日、17日、25日)

近隣の学校で集まり、各学校の代表選手が対戦しました。低学年の男子・女子、高学年の男子・女子に分かれて、サッカーとハンドボールの試合をしました。子どもたちは、手作りの紙吹雪、応援ボード、楽器などを持って、友達を一生懸命に応援しました。



【ひとこと】

悶々とする日々が続いた7ヶ月目を過ぎました。これまでもパラグアイの文化やパラグアイ人に対して“違和感”や“疑問”を感じることはありました。しかし、立て続けに起こった出来事で明るみになった文化の違いに対し、柔軟に受け入れることも、割り切って受け流すこともできず“嫌悪感”を抱いては、それを手放す方法を見つけられない日が続いたことがありました。育ってきた環境、歩んできた歴史、操る言語・・・それらのすべてが違う私（日本人）とパラグアイ人です。“ひとりひとり違う”そんなことは当たり前の話で、頭では理解しているつもりです。それでも、これまでに訪れた国々での出来事、パラグアイでの出来事を振り返ると、ある程度「〇〇人らしさ」といった特徴が存在するように感じています。もちろん、私を含めた日本人にもたくさん。

その「〇〇人らしさ」を、良い、悪いと決めつけることはできません。ただやはり、合う、合わないは感じます。その“合わないなあ”と感じたときのストレスと、それを上手く自己処理し切れないことへのストレスの両方を感じる出来事が続きました。どうしてこんなにもややとした気持ちが続くのだろう、珍しいなあ、煩わしいなあ。たくさん話を聞いてもらう、思いのままに気持ちを殴り書きする、気が済むまで好きなことに没頭する等してようやく頭の中を整理することができました。

それらの一連のストレスの原因は、私の中にパラグアイの住人であるという意識が芽生えたことによるものだと。おそらく到着した直後は、目に映るすべてが新鮮なただの“旅行者”であり“よそ者”である意識が強かったと思います。しかし、パラグアイの人々と生活を共にするようになり、素敵なところをたくさん知っていきました。いつの間にかパラグアイの魅力に圧倒され、この国が好きになっていました。

だからこそ、パラグアイのことを、パラグアイ人のことを、例え部分的にでも嫌いにならなくなかったのだと思います。すべてを愛したかったのだと。

つまるところ、私はパラグアイが好きで、これからも好きでいたい。その気持ちが確認できて、何だかほっと安心しました。

きっとこれからも、“違和感”や“嫌悪感”と向き合い続けていくことになるのだらうと思います。同時に、そういった感情に出会ったときの自分とも向き合い続けていくことになるでしょう。自分に関する新しい発見ができることも日々の楽しみの一つとして捉え、時々怒りっぽく、時々涙もろくも、勇敢なふりをしながら前向きに頑張ります！

日本で過ごす夏休み、
楽しく過ごせたでしょうか？
地球の反対側、
そして季節は冬でも、
浴衣を着ることができました。
写真は日本人会主催の
七夕祭りに参加した
ときのものです。
世界中を旅したい！と、
短冊に書きました★

